



まちづくり協議会 クローバー

No. 13

私たちの東日本大震災復興支援活動

三月十一日、誰も想像しえない規模の大災害が起きました。大地震、大津波に原発事故が加わり、今尚多数の人が危険にさらされています。各地で支援の輪が広がったように、私たちも、支援行動を起しました。



三月下旬から、聖学院大学の学生が街頭募金活動を大宮駅、宮原駅などで連日募金を呼びかけ義援金という形の活動から始めました。

四月上旬、クローバーでは、急遽支援物資を持ち寄り、現地に届けることを決めました。持ち寄った物資をトラックに積み込み、四月二十四日から東北各地の被災地に直接届けて回りました。一回目は、ガスコンロやボンベなど。二回目六月四日には、新鮮な果物や野菜を南三陸町に届けました。



南三陸町には、二台の車に、さいたま北商工協同組合理事、聖学院大学生、大学職員が乗り込み、地域挙げての支援行動となり、これは、聖学院大学の復興支援ボランティアの準備行動でもあり、日常の連携がこの場面でも発揮されることとなりました。

五月二十六日より三泊四日で、聖学院大学のNPO法人「コミュニティ活動支援センター」の理事2名と学生5名が、岩手県久慈市と野田村に向い、男子4名女子1名の学生たちは、梅雨空のなか、瓦礫の除去作業にしっかりと汗を流してきました。聖学院大学で

は、復興支援の機運が盛り上がり、聖学院復興支援ボランティアセンター（AMC）が誕生し、学生、教職員一体となって継続した活動を始めています。



六月三十日より三泊四日で、岩手県久慈市と野田村に二回目の支援活動に向かい、学生は男子4名女子3名に増えました。

少しずつ復興は進んでいますが、今なお町の至る所には生々しい爪あとが残されており、今後も様々な形に変わりながら、継続した活動と支援が必要です。



「まちづくり協議会クローバー」

二〇〇三年四月発足の宮原駅西口地域まちづくり協議会を前身とし、二〇〇五年八月に、より幅広い活動を目指して改称した市民組織です。この地域をすべての住民にとって住みやすいまちにしたいという願いのもと発足させました。現在の会員は、さいたま北商工共同くみあい、宮原町三丁目自治会、日進三丁目自治会、日進三丁目子供会育成会、聖学院大学、NPO法人コミュニティ活動支援センター、聖学院大学学友会、多機能型事業所「野種」、JR宮原駅です。